

アジア開発銀行・アジア開発基金 第七次財源補充交渉沖縄会合 開催される サミット後初



財務部

その1

■はじめに■

去る九月六日及び七日の二日間、沖縄サミットの舞台となつた名護市の万国津梁館においてサミット後の初の国際会議となるアジア開発銀行のアジア開発基金第七次財源補充交渉の沖縄会合が開催されました。

以下その概要を紹介します。

■開催の経緯■

沖縄開発庁では、ポストサミットへの施策として国際会議の誘致を精力的に進めており、また、政府の沖縄経済振興二十一世紀プランや第三次沖縄振興開発計画などでも国際会議の誘致を推進課題として掲げております。このような取組みもあつて、今回の会合は、地域振興や国際交流促進の観点から沖縄で開催されることとなりました。

■アジア開発銀行（ADB）の概要■

ADBはアジア太平洋地域の人々の生活水準向上、貧困削減を目的とした、国際開発金融機関であり、一九六六年に設立（本部フィリピン・マニラ）されました。現在ADBには、アジア・太平洋地域の域内四十三の国・地域及びヨーロッパと北アメリカの域外十六か国の政府が加盟しております。日本は設立当初から参加しており、出

資比率は十六%と米国と並び最大の出資国者となっております。

■アジア開発基金（ADF）の概要■

ADFは、ADBに設けられた長期低利の貸付を行うための特別基金です。ADFは一九七三年に創設され、現在二十六か国が資金を拠出しており、日本は最大の拠出国で、拠出累計額全体の三七・五%を占めております。

ADBではADFの貸付により、アジア太平洋地域の貧しい国々において貧困削減と生活水準の向上を目指し、インフラの整備、教育・保健等の公共サービスの拡充、環境保護等のための数多くの事業を行っています。

（財源補充の推移）

第一回のADFへの拠出は一九七三年に行われ（ADF）、その後現在まで、ADFの財源は六回にわたり補充されてきました。現在では一九九七年に合意された第六次財源補充（ADF）の財源で運営されており、その有効期間は二〇〇一年から二〇〇四年までの四年間の所要資金の調達を図る第七次財源補充（ADF）については、これまで次のとおり四回の資金供与国会合が開かれ、今後のADFによる支援の基本方針、効率利用のための方策、貸付の見直し、所要資金の規模等について話し合いが進められてきており、今回の沖縄での開催で最終交渉となりました。

- 第一回 一九九九年十月
オーストラリア／ブリスベン
- 第二回 二〇〇〇年二月
英国／エジンバラ
- 第三回 二〇〇〇年五月
タイ／チェンマイ
- 第四回 二〇〇〇年六月
イタリア／ローマ

■ADF 沖縄会合の様相■

今回の会合は、村田大蔵総括政務次官、千野ADB総裁、ドナ国二十五カ国・地域の代表、ADB事務局など約九十名が参加しました。

会議初日の九月六日は、千野ADB総裁の冒頭スピーチで始まり、会議終了後は村田大蔵総括政務次官主催の夕食会がもたれました。

二日目の七日は、大蔵省主催の昼食会をはさみ会議が行われ、夕方からは沖縄県知事主催の夕食会の船上ディナーが開催され、沖縄との交流が深められました。

会議終了翌日の八日は、リンチャー、マコーリーの両議長等による記者会見が行われ、二〇〇二年から〇四年までの四年間に総額五十六億ドルの資金を拠出することを合意した旨の説明がなされ、また、沖縄の美しい環境、会議設備の素晴らしさ、県民の温かい歓迎の心が感じられ、会議成功の重要な要素となつたとの感想が述べられました。

■おわりに■

今回のADF 沖縄会合は、アジア太平洋地域の貧困削減のための重要な会合となつたばかりでなく、「国際コンベンション・アイランド」を標榜する沖縄県においても、サミット後の国際会議であり、重要でかつ注目されたものであつたといえます。その会合が関係者等の協力により成功裏に行われたことは、これからの沖縄にとつて大きな可能性を示したものであります。



記者会見



村田大蔵総括政務次官挨拶



会合の様相